

保護者の皆様

南アルプス市立櫛形西小学校  
校長 川崎 将人

## 平成30年度 後期学校評価の結果について

大寒を過ぎ、寒さも一段と厳しいこの頃ですが、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校教育活動にご理解とご協力を頂き、ありがとうございます。さて、今年度の後期学校評価の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

本校の学校評価は、学校教育目標の実現（学校経営方針の実現に向けた本年度の努力点）のための取組状況を、教職員による自己評価に加え、保護者の皆様や、児童によるアンケート調査結果を利用する中で、それぞれの立場を踏まえるとともに、これらに関わる設問に寄せられた意見や、日常的に行っている児童観察および意識調査も加味して分析し考えています。

### 【1】評価基準

全体傾向を把握するため、A B評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断しました。また、C D評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断しました。

(A: そう思う B: だいたい思う C: あまり思わない D: そう思わない E: わからない)

### 【2】全体的な傾向

児童・保護者・教職員の3者ともに、ほとんどの項目で肯定的な【A】【B】評価が80%を超え、否定的な【C】【D】評価が20%を超えるものは、保護者アンケートの③「子どもは、家の仕事を進んでしていた」だけであり、また、前期と比べても【A】【B】評価が増え、【C】【D】評価が減る結果でした。

学校生活の楽しさの調査項目（児童：「学校は楽しかった。」 保護者：「子どもは楽しく学校へ行っていた。」）では、74%の児童が【A】と回答し、【B】も含めると93%の児童が学校を楽しく感じています。しかし、7名の児童が【C】、1名の児童が【D】と回答しています。ただし、前期では、【C】6名、【D】7名いたことから見ると否定的回答は減り、よい方向に改善されていると考えられます。このことは保護者の皆様も認めてくださり、保護者の評価も向上しています。

以上のことから本校は現在、概ね「満足できる状況」にあると判断できます。しかし、今後一層向上するためには、楽しくないと感じている児童に対して、個別に対応策を検討したり、集団の在り方をさらに高めたりするなどして、よりきめ細やかな指導を継続していくことが課題と考えます。

### 【3】個別の分析

#### (1) よく考え、進んで学ぶ子どもの育成【確かな学力】

学力＝①基礎的・基本的な知識・技能の習得②思考力・判断力・表現力③学習意欲・態度  
学習内容の理解に関する項目（児童：「授業（学習）はわかった。」 保護者：「子どもは、授業の内容を理解できた。」）については、児童98%、保護者94%が【A】【B】の肯定的評価となり前期の肯定的評価より高い評価を得ています。これは前期同様、児童のまじめな学習態度や、少人数でのきめ細かな指導。また、数々の有益な体験活動に基づいた学習指導の成果であると考えられます。

本校では、学習でつまずきの見られた児童を対象に、放課後個



別に補習を行う取組を継続して行っています。また、全校一斉に漢字と計算の学力診断もそれぞれ毎月行っています。これらの取組によって、児童の学習の定着の度合いがより詳細にわかり、授業内容の充実直結するため、今後も継続してまいります。

また本校では、平成29・30年度南アルプス市教育委員会指定「学びの質を高める授業づくり推進事業」の研究指定校として「他との関わりの中で、互いに学び合う児童の育成」～主体的・対話的で深い学びを通して～を研究テーマとして、教師一人一人の指導力向上をめざし、校内研究会や公開授業研究会を行いました。それぞれの教員が提案授業を行ったり、早稲田大学教職員大学院教授田中博之先生を講師に招き「主体的・対話的で深い学びについて」の研修会を行ったりするなどして、校内での研修をさらに充実させることが出来ました。今後も、今まで続けてきた本校の教育の良さを生かしつつ、「学びの質を高める授業づくり」に向けてなお一層研修を重ねていく所存です。



一方で、保護者アンケートにおいては、前期よりも肯定的評価は増えてはいますが、家庭で落ち着いて学習に取り組めていない状況が依然として高いことが、後期も浮き彫りとなりました。

本校では家庭学習の充実のための手始めとして、「家庭学習の手引き」に加えて「連絡帳の充実」の取組を各家庭にお願いする便りを配布しました。しかし、その活用は十分とは言えず、また、家庭学習は家庭での生活習慣と大きな関係があるため、学校でできることには限界があります。家庭学習については、学校と家庭がお互いに協力をして取り組むことが大切なので、今後も家庭と連携し、学ぶ目的や学習の仕方を指導してまいります。

## (2) 思いやりの心を持ち、助け合う子どもの育成【豊かな心】

### ※いじめに対する取組について

まず、いじめに関わることについては、児童同士の優しいお付き合いや、意地悪なことを繰り返ししないなどについて【A】【B】評価が増加し、【C】【D】評価は減少して、前期より肯定的評価が高い評価となりました。特に、被害者意識を持っている児童の割合が大幅に減少しました。また、保護者皆様の意識も同様の傾向を示しています。2学期は運動会等の行事を通して全校的な交流の場が多く、児童相互の交流を通して互いの理解が深まり、思いやりの心や望ましい人間関係作りができたと考えられます。このことは本校の最重要課題として年度当初から取り組みを行った結果、その成果が出てきていると考えられます。しかし、油断せず小さないじめも見逃さない姿勢を基本としながら指導を継続し、今後においても、いじめ防止は本校の最重要課題としてとらえ、小さなトラブルもいじめに発展する可能性を排さず、きめ細かな指導を継続していきます。

「こころ」を育てるための様々な教育活動については、どれも高い評価を得ることができました。特に「全職員が児童に対する共通理解のもと、積極的にふれあい、適切な児童理解に努めることができた。」については、全教職員が肯定的回答となりました。

本校はユネスコスクールの指定を受ける県内でも稀有な学校であります。また、周辺地域もユネスコエコパークとして世界に誇る環境を備えています。これらのことが、教育活動においても、その環境を有効に利用することができたことの表れととらえることが出来ます。また、その教育を効果的に支援する地域の教育力も大きな支えとなっています。



あわせて、今年度もユネスコスクールとしての取組の一つとして4年、5年、6年生を対象に、南アルプス教育委員会文化財課保阪太一様、高尾徳見神社崇敬会神楽部の皆様を講師に招いて、地域に残る徳見神社、高尾の夜祭についての学習を行い、郷土の文化と伝統行事にふれ、それを大切にしている人たちの努力を知り、郷土を愛する心を育てる活動を行いました。また、今年度

は新たに南アルプス市文化財課と協力して、6年生が総合的な学習の時間「西地区有名計画」で調べた地域の文化財の情報をグーグルマップ上にリンクさせ、世界中のどこから誰でも自由に閲覧できる取組も行い、その活動の内容は考古博物館主催の「わたしたちの研究室」にて高く評価され優秀賞を受賞しました。

さらに毎年学校を開放して道徳授業を公開し、来校者から頂いた感想をもとに反省会をもつなどして、さらなる内容の充実を図りました。また、小笠原流礼法とも関わらせる中で、児童の道徳的実践力の向上を図っています。

一方で、携帯やスマホ(以下、携帯電話等)の保有率は、82%に達しています(児童回答)。家庭生活の多様化により、保有率は年々増加傾向にあります。携帯電話等の使い方の約束が決められている家庭も90%に増加しています。このことは本年度も、児童と保護者両方を対象にして「ケータイスマホ安全教室」を継続して開催したこともあり、数値の向上につながったと考えられます。今後も携帯電話等の利用のみならず、安易なネット接続が招く犯罪やトラブルに巻き込まれないために情報リテラシー教育と合わせて、継続して啓発活動を続けていきます。

### (3) じょうぶな体でがんばりぬく子どもの育成【健やかな身体】

全体として高い評価となりました。



児童の体力については、全国的には体力の回復傾向が見られますが、本校において走力は高かったものの、敏捷性や持久力、跳躍力については課題が残りました。これらの状況から本校では、外遊びの楽しさを児童に知らせることによって体力の向上を図ろうと、児童会主催の「縦割り班遊び」などを行い、児童の「校庭で運動や遊びができた」の項目は【A】【B】評価が向上しています。

また、児童の「食べ物を大切にし、好ききらいなく食べることができた」の項目は、南部給食センターで季節に応じて栄養バランスを考えたメニューを工夫していただき、学校全体として給食の残食は少ないです。しかし、好き嫌いがある児童に対しは生活習慣も大きく影響しており、家庭の協力が不可欠であるので、今後も連携して指導していきます。

安全・防災については、南アルプス市消防本部の協力を得ながら、教師による通報訓練(火災発生時を想定)や煙道体験を実施しました。煙道体験では、設営されたテント内に充満した煙の中を、姿勢を低くして避難する児童や、逆に高い姿勢のまま歩いたために、行き先を見失う体験をする児童など、実践的避難訓練として大いに効果のある機会とすることが出来ました。



また、南アルプス警察署生活安全課の協力を得ながら「防犯教室」(不審者侵入訓練)も行っていました。今後も、関係機関と連携をした防犯・防災訓練を続けていく予定です。

### (4) 家庭や地域社会と連携し、信頼される学校を作る【信頼される学校づくり】

高い評価を得ることができ、満足な状況となりました。



地域の教育力や人材活用については、授業でのボランティア、PTA活動や登下校の児童見守り活動等を通して行われていて、これらについて三者とも大変満足していることがわかりました。また、保護者や地域の皆様の教育力や人材を生かした学習については、多くの場面で協力を頂き実施することができました。このような体験活動は、児童の学力の向上とともに、学校・家庭・地域の連携を深める大きな要素となります。児童は、保護者や地域の皆様のご支援に対し、とても満足しており楽しみにしています。さらに、私たち教職員も、登下校時の見守り・横断補助・付き添いなど、児童の安全確保に大きなお力添えをいただいていることに感謝しております。これからもこの関係を大切にして、今後もこの活動が継続して頂けるよう努力して参ります。